



本願寺御影堂 臺股(かえるまた)の飛天・迦陵頻伽 写真提供:京都府教育委員会文化財保護課

Buddhist Music — Newsletter

# 佛 教 音 楽

ニューズレター

- 創刊に寄せて — 教学伝道研究センター所長 上山大峻
- 仏教音楽展望 — 『佛教音楽ニューズレター』創刊に際して  
研究所に寄せられている要望  
御堂演奏会及びアンケート報告
- 交流のひろば — ハワイ音楽通信 フランシス岡野  
仏教音楽の故郷ハワイ開教区  
築地楽友会／静岡混声合唱団TERRA  
コールアソカ／マーヤー合唱団
- みる・きく・よむ — 書籍紹介
- クローズアップ — 大阪教区寺族婦人会連盟「コーラス妙好華」  
兵庫教区御同朋総結集一万人大会  
風をみる人～かさねあう生命のゆらぎ
- 情報コーナー — 情報をお寄せください
- 本願寺文化にふれる：連載 本願寺折々の文化

掲載記事・情報募集中!

教区・お寺での仏教音楽活動  
様々な合唱団活動  
学校・幼稚園・保育園での音楽活動  
法要・イベント・記念式典など  
皆さまからの情報をお待ちしています

浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター  
本願寺仏教音楽・儀礼研究所

〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92番地  
本願寺第3庁舎内  
TEL.075 (371) 9244 FAX.075 (371) 5761  
<http://www2.hongwanji.or.jp/ongaku/>



●御堂演奏会2004



若い世代に伝わる仏教音楽[筑紫女学園(上)／ハワイ開教区(下)]



ごあいさつ

## 『佛教音楽ニューズレター』創刊に寄せて

浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター 所長  
上山大峻



1974（昭和49）年に本願寺内に創設された「仏教音楽研究所」は、さまざまな活動を行ってききましたが、昨年4月「仏教音楽」と「儀礼」を総合的に研究する「本願寺仏教音楽・儀礼研究所」に改編されました。この機構改革を機に、本研究所は、わが宗門における仏教音楽や儀礼のあり方についての研究を行うとともに、門信徒の方々が生活のなかで親しんでいたような仏教讃歌の創作や普及に取り組むことになりました。

私たちが把握しているだけでも、現在、全国に約250の仏教コーラスグループがあり、それぞれの地域で積極的な活動をされています。この活動が更に広まっていくならば、門信徒の方々はもとより、今まで浄土真宗に関心のなかった人びとにも共感をよび、仏教讃歌の「うねり」にのってお念仏の輪も大きく広がっていくことでしょう。

このたび創刊する「佛教音楽ニューズレター」は、そうした宗門における仏教音楽活動の広がりや充実を見据えて、グループにしる個人にしる、仏教音楽活動に関わっておられる方々に、行事や催し物、新曲、関係著作などさまざまな情報の提供を行うとともに、皆さまからの率直なご意見や情報をいただきながら、コーラスグループ間の交流の役目も果たしていきたいと期待しているものです。

本紙がそうした仏教音楽活動の一助となって、来る親鸞聖人750回大遠忌法要には、仏教讃歌にのせて、お念仏に生かされる喜びが日本全土に響きわたっていくことを願ってやみません。



## 『佛教音楽ニューズレター』創刊に際して

— 本願寺仏教音楽・儀礼研究所が目指すもの —

常任研究員 前田 正樹

### “本願寺仏教音楽・儀礼研究所” スタート

昨年4月より、「浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター」の3研究所のひとつとして“本願寺仏教音楽・儀礼研究所”がスタートし、9ヶ月が経過しました。様々な研究成果をふまえ、宗門の将来を展望した各種の提案を行なっていきたいと考えています。

### 創刊号の発行

この『佛教音楽ニューズレター』は、当研究所が、仏教音楽に携わるすべての人々と全寺院にむけての情報紙として発行するものです。本紙を通して仏教音楽関係者、僧侶・門信徒の交流が深まり、そして仏教音楽の活動がますます盛んになることを願っています。どうかお気軽に仏教音楽に関する情報をお寄せください。また、本願寺の儀礼や文化に関する記事も、研究の進展にあわせ、随時掲載していきたいと考えています。(詳しくは11ページをご覧ください)

### 旧『佛教音楽』バックナンバー再読

『佛教音楽ニューズレター』の創刊にあたり、旧『佛教音楽』のバックナンバーを読み返してみました。宗門内の「仏教音楽」をめぐる状況、取り組みは、どこがどのように変わり、何が変わっていないのかを、この機会にしっかりと見据えておきたいと思います。

### 旧『佛教音楽』創刊当時の状況

『佛教音楽』が創刊された1980(昭和55)年は、大谷光真ご門主の伝灯奉告法要が行われた年であり、今も各種法要パンフレットなどに掲載される「教書」が発せられた年でもあります。この創刊号には誌上シンポジウムとして、山崎昭見、兼安英丸、桜井端彦、森正隆、太田信隆、北島経昭の各氏の提言が掲載されています。その中で特に、兼安氏が挙げられた「教区に寄せられる意見」を、少し長くなりますが列記してみましよう。

### <現場で求められているもの>(原文のまま)

1. 各々の教化組織(又は年代別)を考慮した讃歌(特に老人の歌えるものがない)の創作、歌集の編集。
2. 今までに作られた讃歌の中には素晴らしい曲が多い。そのほりおこし、普及に力を入れること。
3. 現在ある伴奏譜はピアノ用のものが多い。寺院には電子オルガンの音質がなじめるので、その伴奏譜を編集されたい。
4. 混声編の曲が多く、女声(又は男声)二部・三部の曲が乏しい。
5. 仏前結婚式用の曲。(演奏用・合唱用)

### <中央へ望むもの>

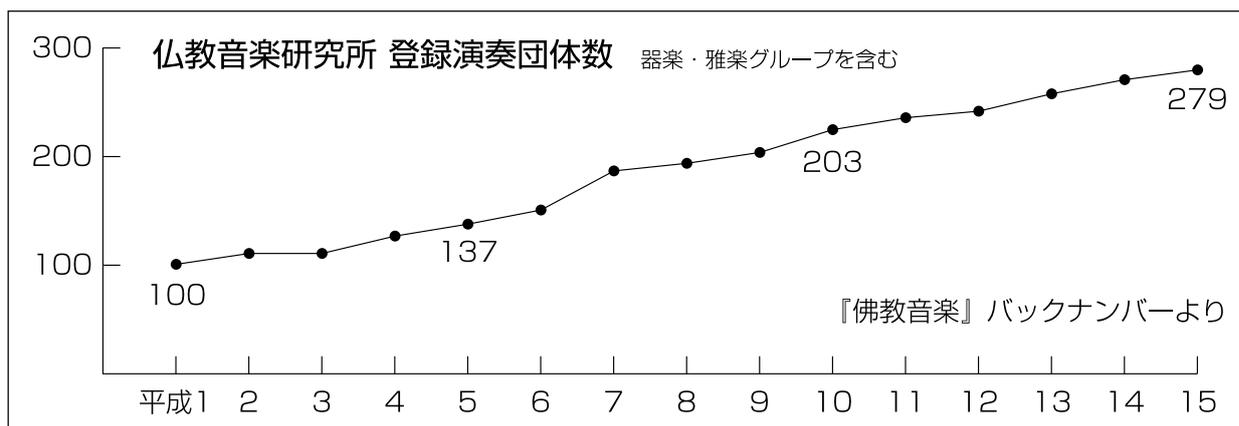
1. 指導者名簿の作成。
2. 地方の小さな活動を大切に育成していく方向づけが必要である。
3. 指導者講習会、新曲発表会、教区仏婦大会等の中での新曲発表の時間をとり入れる。
4. 資料センターの設置。
5. 各組に讃歌担当者を置き、全ての仏教音楽資料をもたせる。

また森氏は、みずみずしい信仰の情念から湧き出る〈詩〉の必要性を訴えられ、北島氏は創作活動を充実すべきこと、普及活動の不充分さと流通機構(普及システム)の貧弱さに言及されています。

### 『佛教音楽』21号の記事から

21号の「仏教音楽研究所前史」を見ますと、1967(昭和42)年には「本願寺派仏教音楽合唱連盟」結成にむけての試案が作成されたものの、21号出版時(1990年)でもまだ実現していないことが嘆かれています。また、各種音楽法要についても、テキストやあらゆる問題についての検討が、1970年代以来重ねられたことが詳しく述べられています。

これらバックナンバーの記事から見ても、仏教音楽や研究所の活動において望まれる内容が、今も昔も同じであることに驚かされます。今後、改めてこれらの諸問題に取り組んでいかなければならないと考えます。



# 仏教音楽 展望

## 「本願寺仏教音楽・儀礼研究所」に寄せられている要望

さて、当研究所には、昨年来様々な質問や、ご要望が連日寄せられています。ここでは、その一部をご紹介しながら、私たちが何を目標としているかをご説明したいと思います。

### 【要望】 仏教音楽を聴く機会を増やして欲しい

一般寺院での仏教音楽の普及に関して、ご要望が多く寄せられています。その中には、ご住職さんにもっと仏教音楽の意義をご理解していただくための努力が必要であることも含まれています。そして一ヶ寺でも多くのお寺で「仏教讃歌」が演奏されるようになってほしいとの要望があります。

### 【要望】 合唱団の指導をして欲しい

登録団体は前ページのグラフのように年々増加しているのですが、合唱団の多くは、指導者不足を訴えておられます。当研究所のスタッフを全ての合唱団に派遣することは困難ですが、教区内合唱団による「合同練習会」などの可能性も探っていきたいものです。

### 演奏家・指導員ネットワーク

全国一万ヶ寺をはじめ、533組、31教区、海外開教区、約280の登録団体に対して、当研究所のスタッフのみでは、演奏や指導をすることは不可能です。そこで、今までにお世話になった関係者の方々にご協力をお願いしたり、宗門内外から広く人材を発掘して「仏教音楽人材バンク」のようなシステムを作成することで、皆様のご要望にお応えする必要があると考えています。

### 【要望】 教区内での合唱大会

「合同練習会」ができるならば、「教区合唱大会」も可能でしょう。すでに安芸教区や東海教区、北陸や九州でも、教区単位、組単位で合同の合唱大会が行なわれています。日頃の練習成果を発表する場があれば、それを目標としても練習に励んでいただけないのでしょうか。

### 『本願寺仏教文化（音楽）連盟』に向けて

教区内で「仏教音楽連盟」を結成しておられるところもあります。それが、全国規模、世界規模となり、音楽以外の芸術も含めて『本願寺仏教文化（音楽）連盟』となるなんて、私たちの夢の世界でしょうか？

### 将来の展望としての「仏教音楽世界大会」

ハワイや北米、南米、韓国、台湾、シンガポールでも、「仏教音楽」の演奏は活発です。各国の合唱団によびかけることで、より大きな歓びを共有するイベントも開催できるのではないのでしょうか。

### 【要望】 もっと多彩な楽譜が欲しい

女声・男声・混声といった編成や年齢別の楽譜、それも素晴らしい作品の楽譜が何としても必要です。宗門関係学校や、幼稚園・保育園ではどんな曲が求められているのか。仏教婦人会連盟ばかりではなく、仏教壮年会連盟や青・少年連盟、スカウト活動でも歌っていただける仏教讃歌とはどんな曲なのか。それを調査し、みなさんと連携して新しい仏教讃歌を数多く創っていききたいものです。

### 「本願寺作詩賞」

新しい仏教讃歌を創作するために、宗門関係学校等に呼びかけて仏教讃歌の歌詞を公募したいと考えています。「本願寺作詩賞」の創設と、その入賞作品への作曲によって、若い世代の皆さんに喜んで歌っていただける「仏教讃歌」を世に送り出していくことができれば…、と考えています。

### 「和讃歌100曲プロジェクト」

親鸞聖人の「ご和讃」を歌詞とする作品は、「恩徳讃」をはじめ多数あるように思われていますが、実は、50曲にも満たないのが現状です。そこで、この度の大遠忌を記念し、宗祖親鸞聖人を讃仰する意味を込めて『三帖和讃』を中心に多くの楽曲を創作し、楽譜やCDを出版する計画を推進してまいります。

### 【要望】 お寺で使える共通の『仏教讃歌』楽譜集やCDが欲しい

当研究所が編集を引き継いでいる黄色本・緑本の『仏教讃歌』に手を加え、さらに素晴らしい曲の発掘とともに、新曲も加えた、定本となる『讃歌集』を編纂する予定です。これはキリスト教会に置かれている『讃美歌集』のように、日頃の寺院活動にも利用していただこうと考えています。また、仏教讃歌を家庭や寺院で気軽に鑑賞していただけるBGMとしての「浄土の音楽」シリーズや、歌いやすい作品を集めた「日々（にちにち）のうた」シリーズなどのCDも刊行してまいります。

### 活動の基本となる「二つの視点」

『佛教音楽』のバックナンバーを全部読みなおして気付いたことがあります。「仏教音楽」がなぜ、これほど広まったのか—それは、中央からの働きかけだけではなく、それぞれの現場で、皆さんが、歓びとともに「仏教讃歌」を歌い続け、広めてくださったのだということです。「仏徳讃嘆」の歌声は、押し付けでは沸き起こらないのです。私たち研究所は、次の「二つの視点」を、常に確認しながら活動していこうと考えています。

#### 1. 門信徒の視点 2. 宗門外一般の方の視点

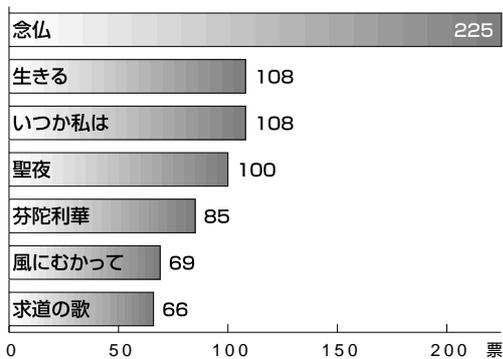
私たちが考えている以上に素晴らしいアイデアをお持ちの皆さんが沢山いらっしゃると思います。皆さんの現場からのご意見・ご要望をお待ちしています。

## 御堂演奏会 及び アンケート報告

恒例となりました「御堂演奏会」は、2005（平成17）年11月22・23日の両日合わせて1,299人の参加者を集めて盛大に開催されました。このまま参加者が増え続けるとリハーサル会場の確保も含めて、新たな対応をしなければならないと考えています。そこで今回、参加者を対象にアンケートを実施させていただきました。その結果の一部をここに紹介させていただきます。

【設問・1】今回取り上げた作品の中で、来年も歌いたいと思う曲はどれですか？（2つ以内）

【回答】



【設問・2】これまでに御堂演奏会で採り上げた作品で、もう一度歌ってみたい曲は？（一覧表より3つ以内選択）

【回答】 ベスト10（今年度演奏作品を除く）

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1. いのち毎日あたらしい | 51票 |
| 2. ごおんうれしや    | 44票 |
| 2. 咲き匂う       | 44票 |
| 4. ありがとう      | 39票 |
| 5. しんらんさま     | 30票 |
| 6. みほとけにいだかれて | 29票 |
| 7. ほほえみとともに   | 26票 |
| 8. 旅ゆくしんらん    | 24票 |
| 8. コスモスの花     | 24票 |
| 10. 明日に向かって   | 23票 |

【設問・3】御堂演奏会の頻度

【回答】（無回答者を除く）

別の時期にも開催	144票（42.1%）
11月一度でよい	198票（57.9%）

【設問・4】別の時期を希望する場合、参加しやすい時期は？

【回答】 設問・3で1.と答えた方のみ

一月（御正忌報恩講）	3票（2.1%）
二月（如月忌）	7票（4.9%）
三月（春季彼岸会）	17票（11.8%）
四月（春の法要）	64票（44.4%）
五月（宗祖降誕生会）	45票（31.3%）
九月（秋季彼岸会）	8票（5.6%）

【設問・5】（例えば「東日本在住者は11月、西日本在住者は別の時期」というように）主催側が出演時期を指定することは？

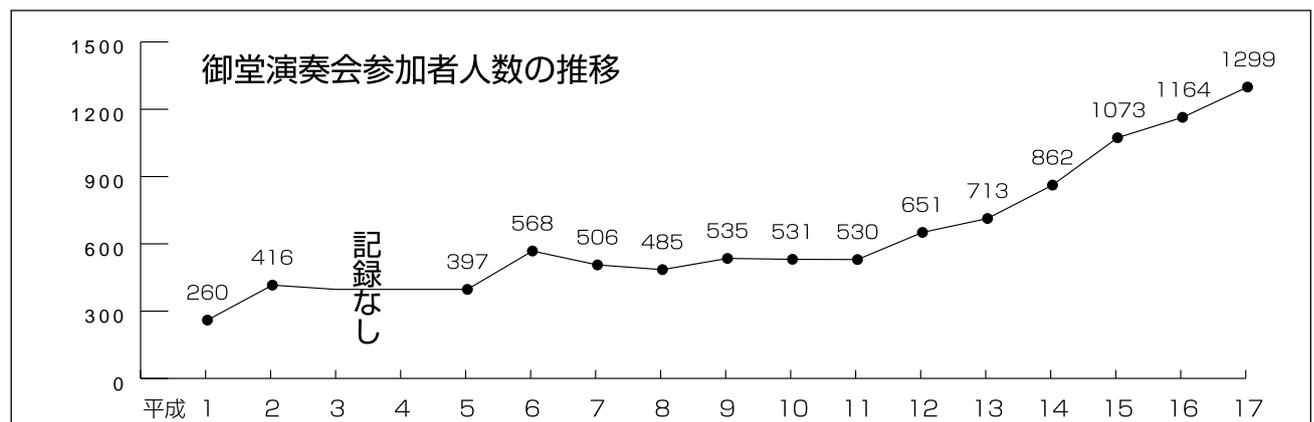
【回答】

かまわない	79票（54.9%）
出演時期は自分で選びたい	65票（45.1%）

この他にも合同練習会の開催や当日の運営方法、研究所への要望など、様々な質問をさせていただきました。皆様のご意見を参考にしながら、研究所内でも反省を含めて様々な討議を重ねています。

来年度以降は、もう一度原点に立ち返り、本山の御堂において、御真影さまの前で「仏徳讃嘆」の演奏をするのだという厳粛な雰囲気大切にしながら、実施したいと考えています。単なる演奏会ではなく、新たな真宗「儀礼」のひとつとして、宗教的な感動を共有していただけるよう、運営に努めてまいります。募集要項など詳細な計画については、来年度の発表となります。今後もしらにご意見をお待ちしております。

★寄せられました回答は、当日回収・郵送・ファックスを含め、12月10日現在、合計387件になりました。皆様のご協力に対し、改めて心よりお礼を申し上げます。



ハワイの人々は、これからの本願寺の仏教音楽を楽しみにしています。1918年に本派本願寺ハワイ別院にパイプ・オルガンが設置——当時としては、パイプ・オルガンを備えた世界で唯一の仏教寺院でした——されてから今日まで、ハワイ教団では、英語による讃歌の振興に尽力し

てきました。初期の功労者たちのなかには、当然のことながら、キリスト教の讃美歌の旋律や歌詞に慣れ親しんでいた、英語を母国語とする人々が含まれていました。そして、2世から3世、4世の時代になるにつれ、「地域文化に根ざした歌詞とメロディーを」という声



## ハワイ音楽通信

ハワイ開教区 音楽委員会 委員長  
フランシス 岡野

が多くなってきています。実際、1990年に刊行された新版の『Praises of the Buddha』（ハワイで用いられる英語のサービス・ブック）では、英語の讃歌が半分以上を占めています。さらにそれ以降も、英語による詩が、20作以上も発表されてきました。また今日では、日本で発表され

た新しい作品も、きっちりと翻訳されており、さらに特定の宗教や宗派に関連せずとも宗教的な感性をそなえた音楽作品が、寺院活動のなかで受け入れられつつあります。



### THE STATE OF MUSIC IN HAWAII

**Francis Okano**  
Music Committee Chairman

In Hawaii, we are optimistic about music in the Hongwanji. Dating from when the Honpa Hongwanji Hawaii Betsuin was reportedly the only Buddhist temple in the world equipped with a pipe organ in 1918, the Hawaii Mission has steadfastly focused on developing English gathas. Early contributors included native English speakers whose tunes and lyrics understandably resembled Christian hymns. With the coming of age of nisei, sansei, and yonsei, both lyrics and music gained a more "local" voice. In 1990, the new edition of Praises of the Buddha, Hawaii's English service book, contained English gathas in over half of the selections. More than two dozen English-lyrics music have been created since then. Today, new music written in Japan can be usefully translated, and non-sectarian spiritual music is gaining acceptance within the temple.

Singing at Sunday services consists usually of two gathas, in addition to the Vandana and Ti-Sarana and Nembutsu. Most temples have an organ or piano, while temples without regular organists use taped music. About a fourth of all temples have adult choirs that brighten special services with song. Some choirs, such as at the Hawaii Betsuin, sing as frequently as twice a month. Children's choirs at fewer than half a dozen temples perform on special occasions.

Participation in music events in Hawaii is both informal and enthusiastic. Now in its thirtieth year, the annual Songfest of the Big Island (Hawaii) brings together members from temples island-wide each February for song and fellowship. For the past twenty years, the Hawaii Betsuin has held an annual Songfest for its clubs and organizations for enjoyment and friendship. Occasional trips to a neighbor island, such as the recent visit by Maui's Wailuku Hongwanji Choir to Kauai, provide fun outings for choir members and families. In November 2000, the Hawaii Betsuin Choir participated as the first overseas contingent in Honzan's celebrated Midou Ensoukai.

While the nisei and sansei are accustomed to singing Japanese lyrics, the yonsei, gosei, and Buddhists of non-Japanese heritage generally regard Japanese as a foreign language. This reality dictates that future music in Hawaii be entirely in English, either as translations of Japanese works or as original English lyrics.

ハワイでは、日頃のサンデー・サービスにおいて、《Vandana and Ti-Sarana》と《Nembutsu》以外に仏教讃歌が2曲程歌われます。ほとんどの寺院には、オルガンかピアノがあり、専属の演奏者がいない寺院でも、CDやカセットが代わりに用いられています。そしてハワイ教区に属する全寺院の約4分の1には、成人の合唱団があり、彼らの歌声が、サービスに彩りを添えてくれています。そのなかのいくつかは、ハワイ別院で行われているように、月に2回ほど寺院で歌い、さらに数カ所の寺院——それほど多くはないですが——では、特別なイベントのときに、子供たちの歌声も響くのです。

また、ハワイで開催されている音楽関連のイベントは、教団としては公式なものではないのですが、みなさんとても喜んで参加して下さいます。毎年2月に行われるハワイ島の合唱祭は、30年以上も続いており、歌って親睦をはかろうと、島の全寺院のメンバーが集います。またハワイ別院では、かつて20年間にわたっ





て、楽しみながら人の輪を広げてもらおうと、所属するクラブや関連団体向けとして、年に一度、合唱祭を開催していました。さらに近ごろでは、マウイ島にあるワイルク本願寺の合唱団が、カウアイ島へと訪問演奏を行うなど、時折の他島への演奏旅行が、合唱団のメンバーやその家族にとってのお楽しみとなっています。2000年の11月には、ハワイ別院の合唱団が、本山で開催される御堂演奏会にも、海外からの団体として、初めて参加させていただきました。



今日のハワイでは、2世と3世は、日本語の歌詞になっていますが、4世や5世、そして日本的な伝統のない日系人以外の門信徒にとっては、日本語が外国の言葉になっています。ハワイの仏教音楽は将来全て英語の歌詞——日本語作品の翻訳か、全くオリジナルな英語の歌詞のいずれか——とならざるをえないことでしょう。



## 特集：仏教音楽の故郷ハワイ開教区

常任研究員 福本康之

### ガーターフェスト

少し前のことですが、2005年2月27日、ハワイ開教区のヒロ別院で開催された「ガーターフェスト(聖歌祭)」を訪ねて参りました。ハワイ島(通称:ビッグ・アイランド)の本願寺派全寺院によるこの仏教音楽の祭典は、今回で31回を数えるまでになります。しかも、この催しの素晴らしいところは、合唱団だけでなくハワイ島の全門信徒あげてのイベントであることです。第一部では、お勤めに続いて、日曜学校の功労者表彰

など、一連の儀式が執り行われました。みんなで新しい仏教讃歌を練習するコーナーもあって、レパートリーを増やす機会になっているとのこと。そして第二部では、門信徒の皆さんが、所属寺院ごとにお揃いの衣装を着て、それぞれに工夫を凝らしたスタイルで演奏を楽しんでいらっしゃいました。数十人規模の若い人々による合唱は、日本でもなかなか聴く機会も少ないのですが、YBA(仏教青年会)の皆さんによる大合唱もあり、若い世代へと仏教讃歌が伝えられていると思うと嬉しい限りです。もちろん開教使の方々も合唱団を結成し、(どこか照れくさそうに)踊りながら歌を披露されました。そして最後は、会場となったヒロ別院の聖歌隊の登場です。平均年齢はやや高めですが、それだけ長く仏教讃歌を歌ってきた証<sup>あかし</sup>なんですよと、みなさん誇らしげです(なんと指揮者の井川さんは、この聖歌隊を指揮して半世紀にもなるそうです)。出演するだけではなく、会場作りから何からみんな手作りで、最後はみんなで食事してお開きです。See you next year!(また来年ね~!)と、皆さん充実のひと時を過ごされていました。

## ハワイの本願寺仏教文化と仏教音楽

### ——ミュージック・コミティーと演奏団体の連携

12の合唱団(団員数約250人)が活動するハワイ開教区は、合唱運動の盛んな地域です。その活動は、すでに20世紀の初頭から始まっていました。なかでも注目されるのは、戦後のハワイ開教区において、黛俊郎や清水脩など日本を代表する作曲家に仏教音楽作品を委嘱する一方で、「門信徒の文化を」ということで、一般公募による作品コンテストが開始されたことです。その活動精神は、今日まで受け継がれており、ハワイ開教区において音楽を専門にする組織として設立された「ミュージック・コミティー」を中心に、各寺院の合唱やウクレレ、カラオケなどのサークルに所属されている方々が、それぞれ熱心に、仏教音楽に取り組みでいらっしゃいます。しかしそれは、単なるエンタテインメントではありません。ヒロ別院聖歌隊の代表者多田素枝さんは、語ってくださいました——「単に楽しいだけじゃありませんよ、この仏教音楽こそが、『私たちの』文化であり仏教なんです」と。ぜひともこの思い、若い世代の方々に受け継がれていきますように。



## 築地楽友会

楽友会指揮者 酒井 良一



昭和47年4月に築地本願寺仏教青年会の中で合唱団が生まれ、一年後に築地本願寺合唱団として独立しました。私が楽友会を提唱して付属の管弦楽団が生まれ、現在は混声合唱団、女声合唱団、管弦楽団との三団体で楽友会を組織しています。5月降誕会出演、6月初夏の夕べ主催、9月慈光院震災記念法要出演、11月報恩講コンサート主催、12月成道会布教大会出演、2月如月忌出演、3月慈光院戦災記念法要出演などが年間の主な活動です。報恩講コンサートには関東一円のお寺から讃歌衆が集まってくれ、前半ではパイプオルガンの伴奏により、ご導師、結衆のご参加をいただいで音楽法要「重誓偈作法」をお勤めします。後半では、歌詞にまつわご法話をいただきながら新旧の仏教讃歌をオーケストラ伴奏によって演奏するというスタイルで、ご好評をいただいています。別院よりの予算や会室があり、パイプオルガンもあるという恵まれた環境が整っておりますのでそれに甘えず、仏教讃歌の普及に尽くしていきたいと願っております。現在60人ですが今後オーケストラの会員不足を解消して、混声40人、女声30人、オーケストラ30人の100人規模を目標としていく所存です。



## 静岡混声合唱団TERRA

教覚寺住職 南荘 宏

毎週火曜日の夜になると、教覚寺会館一階ホールに合唱好きの仲間が集まってきます。25年前に16名で結成した合唱団も今では50数名の大所帯になりました。私は創立以来、代表兼指揮者を務めていますが、教覚寺の合唱団ということではなく、練習場がお寺で指揮者が住職という一般の混声合唱団です。従って、普段は様々なジャンルの合唱曲を歌い、3年に一度くらいのペースで、大きな演奏会を開催してきました。今年2月には、1600名を超える観客を集めて好評を博し、また3月には、静岡市の主催で、東京混声合唱団とのジョイントコンサートも実現しました。お寺とのかかわりは、お寺の記念行事の際のアトラクションで、仏教讃歌や得意のレパートリーを披露したりしています。団員に門徒さんは少ないのですが、今までお寺に全く縁のなかった人がお寺に足を運ぶよい機会になっていると思います。



(<http://www.terra1980.com>)

## コールアソカ — 夢は混声合唱団

佐々木貴子

昭和63年4月発足のコールアソカは、18年目を歩んでいます。当時は78名の会員で本堂いっぱい、お正信偈、住職の短い法話、発声練習、歌唱練習と響きわたる音声に感動し涙いたしました。また歌い終わっての茶話会も、多くの方々との語らいが楽しく時の経つのも忘れてしまいます。月2回の活動は雨の夜も吹雪く夜も休むことなく続けました。然し昨年の中越地震では会員のほとんどの方が大きな被害を受け1ヶ月休会せざるを得ませんでした。17年の間にはご家族内の諸事情により残念ながら退会せざるを得なくなった方も多く、現在はほぼ半数となりました。その間仏婦大会や教区の多くの場面で歌わせていただきました。また自坊の行事、本堂再建落慶法要、当院の結婚披露宴等々に出演していただきました。毎年指導の先生のコ



ンサートでも多くのグループと共に楽しい舞台に立ち、歌っております。また活動当日は朝から数人のメンバーが常にお掃除や準備を自発的にして下さいます。十数年にわたりこれが実行されていることに大きな感動を味わい感謝の日々であります。特にこの方々は寺のあらゆる事に積極的にかかわって下さっています。組連研にも10年以上参加して下さっており、中央教修にこそ参加できませんでしたが専徳寺の門徒推進員に他ならないと有難く、心よりお礼申し上げます。日頃お世話になることの多い地元の皆様にも少しもお役にたてたらの思いで始めたのが、逆に皆様に助けをいただいております。住職も大の歌好きであり、常々男性も参加してほしいとの願いがあり、専徳寺混声合唱団「コールアソカ」の誕生をめざして努力して参ります。





### ●投稿募集

「交流のひろば」は、みなさんからのご投稿をもとに構成しています。「こんな活動してま〜す」という情報を、600字程度 of 原稿と1~2点の写真とともにお寄せください。なお、紙面だけでは限りがありますので、研究所のWebサイト(4月リニューアル予定)ともあわせて順次掲載させていただく予定です。

## マーヤー合唱団



### ●マーヤー合唱団 主宰 関藤 龍静

念仏に薫る家庭で育まれ、福井県より嫁いで来られ、音楽大学、声楽科で学ばれた指導者、野田たか子先生、又東寺開教以来、仏法興隆、念仏弘通に大変な協力をされておられる家庭に嫁いで来られた、北川智英子団長さんの二人に恵まれて20周年、47名の合唱団に育ちました。全て仏縁のいたすところであり有難い事です。宗祖750回大遠忌に向って、さあ頑張ろう。

### ●指導者 野田 たか子

仏教音楽を通して、たくさんのお逢いがあり、様々な事を教えていただきました。今その奥の深さに、あらためて感動させていただいております。

### ●団長 北川 智英子

さわやかな四十余名の歌声が本堂いっぱいひびきわたります。私たちの合唱団マーヤーが結成されて早や、20年もたち、平成16年には「二十周年記念演奏会」を開き本堂の、阿弥陀様の前で歌わせていただき、多くの聴衆の方々に感銘、感動を与えることが出来ました。私達は毎週一回法話を聴き仏教讃歌を歌い仏のみのりをよるこび楽しい日を送っております。特に報恩講では、仏具のおみがきや、お供つくりをし、音楽法要をつとめさせていただいております。今後も仏法を聴聞し歌声を大切にし歌い続けたいと思います。

### ●年中行事

- 1月 壮年会(一味会)合同新年会、演奏
- 2月 市内養護老人ホーム訪問演奏(通算18回)
- 7月 降誕会 音楽法要
- 9月 報恩講初夜各教化団体合同報恩講 音楽法要
- 10月 うたごえ“みんなで”100人コンサート参加



## ■みる・きく・よむ

### 『「節談」はよみがえる—やはり説教は七五調』

「説教」を軽んずることなかれ! さても「説教」は、落語、浪曲、盆踊り、はては歌謡漫談に至るまで、その影響たるやいかばかり。綾小路さみまるさんも、根は「節談」にありとは、まさに慧眼。かつては「説教」を聴いて、ありがたや、ご恩報謝の「受け念仏」、「南無阿弥陀仏」と自然に沸き起こるとなれば、これぞ「話芸」の根本、「説法」の大本流。

「節談」は師子相伝、師匠に随伴しての全国行脚、レパートリーを増やし、声を磨き(漬し?)、血を吐くような努力を重ねて、継承されてきたのに、今はあゝ、関山先生が分析されるように、時代に合わないとそっぽを向かれ、古臭いとケギライされ、現代教学にそぐわないと蔑まれ…なぜそんなことになってしまうのやら。江戸から昭和の初めまで、門徒衆には絶大なる支持を受けておりました。吉田神道のみなさんまでも、「神道講釈」で対抗しようとしたくらい、その影響、パワーは天下一品。歴史が語るところでございます。

「節談」は、単なる古典芸能じゃあない。その構成、技術、声音、ジンと心に染み入る哀調といい、真宗の誇る大文化なり。懐かしがってばかりではどうしようもない、ならばやってみようということで、挑みつける谷口さんは、すごい! 「節談」の歴史に、その影響、人物伝から口演まで、<口に出して宣伝したい>この一冊。布教使さんたちにも是非お読みいただきたい書物でございます。

著者 谷口 幸壘(たにくちこうじ)  
監修 関山 和夫  
発行 株式会社白馬社  
ISBN4-938651-44-0 c0015  
定価 本体1500円+税

谷口幸壘さんプロフィール  
昭和25年、札幌市に生まれる。  
奈良高校、龍谷大学を経て、仏教雑誌『大法輪』編集部勤務。  
2000年に退社し、現在は浄土真宗本願寺派布教使。日本ペンクラブ会員。著書に『お地藏さん出番ですよ!』『数珠のはなし』『仏壇のはなし』他。



### 『心の唱Ⅲ』

昨年1月、本願寺合唱団より同団の40周年記念事業として、合唱曲集『心の唱Ⅲ』が発刊されました。同団ではこれまでも、1978年に『心の唱Ⅰ』、1995年に『心の唱Ⅱ』を、それぞれ第5回定期演奏会記念事業、蓮如上人500回遠忌記念事業として出版しており、今回は「女声合唱編」としての出版になります。

『心の唱Ⅱ』を出版した1995年以降のこの10年を振り返り、同団代表幹事の釋氏清子さんは「宗門内での合唱運動の盛り上がりはもろろんのことですが、特に女声コーラスの盛況は著しいものがあります。ですが、女声合唱用の新曲や編曲作品は、御堂演奏会用に発表されたものなど、必ずしも充分とは言えません。かといって、ただ待つばかりというもなんですから」と、今回の発刊への想いを語ってくださいました。

またこの曲集では、読者のみなさんにとっても馴染みのいくつかの作品が、同団のピアニストをもつとめられている丸山千晶さんの手によって、編曲されています。丸山さんの編曲は「原曲の雰囲気大切にしながら」も、そこには思わぬ新鮮な響きも聴くことができます。歌ってみれば新たな発見があるかもしれません。どうぞお手にとってみてください。

編集・発行 本願寺合唱団 発売 株式会社自照社出版  
ISBN4-921029-69-5 定価 1500円



## ■大阪教区寺族婦人会連盟「コーラス妙好華」

研究助手 山口 篤子



大阪教区で活躍する「コーラス妙好華」は、1982(昭和57)年に、同教区寺族婦人会連盟の結成20周年を機に発足した合唱団です。合唱団活動は、あくまで寺族

婦人会連盟の研修の一環であるという方針に沿ったものであるため、「妙好華」はメンバー全員が寺族婦人という、全国でも珍しい合唱団となっています。

「妙好華」という名は、「仏教讃歌の普及を通してお念仏繁昌の一助となる」という創立の趣旨に共感してくださった、大谷嬉子前裏方様からいただいたものだそうで、そうした想いを胸に、現在は、約30名のメンバーが忙しい合間を縫って、月に1回、津村別院で仏教讃歌の練習に励んでいます。

指揮はテノール歌手の田末勝志さん、ピアノは寺本佳世子さん(萬福寺坊守)が担当されています。練習中「言葉を大切に、詩の内容を伝えることが大事」というひとことで、歌声がたちまちガラリと表情を変えて、いきいきとしてくるほど、メンバーの皆さんとの信頼も相性もバッチリ!といった感じです。



練習中は真剣なまなざしの皆さんも、ひとたび休憩になると、今度はあちこちでおしゃべりの花が咲いて、練習場は坊守さんたちの社交場に早変わり。「寺族婦人の親睦と交流」という合唱団設立のもうひとつの目的も、しっかり達成されていました。

創立から20年以上と、長い歴史をもつ妙好華ですが、委員長の鷺山英子さんは「今後は他の合唱団との横のつながりを広げていきたい。そして、次の世代にも仏教讃歌を通してみ教えを伝えていきたい」と話してくださいました。昨年、御堂演奏会でも全国の合唱団と一緒に、素晴らしいハーモニーを響かせていただきました。



## ■兵庫教区御同朋総結集一万人大会

常任研究員 前田 正樹

2004(平成16)年10月31日(日)  
神戸ウイングスタジアム

**800人の大コーラス**  
新門様ご臨席のもと「兵庫教区御同朋総結集一万人大会」が行われました。この大イベントでは、参加者13,400人による『正信偈』が響きわたり、《衆会》《真宗宗歌》の大合唱が響きました。また、兵庫教区コーラス連盟の呼びかけによって約800人の讃歌衆が集い、大迫力の合唱が大きな感動を呼んだのです。これは日頃地道な活動を通して「仏教讃歌」を歌い継いでこられたみなさんの想いが結実したものといえるでしょう。



### 今後の展開

合唱活動が盛んな兵庫教区のみなさんは、この感動を胸に抱きながら、今後の発展を願って新たな動きをされています。その一つは、「御堂演奏会」のために合同練習を教区主催で9月に開催されました。花月常任研究員が出向し、指導をさせていただきました。もう一つは、下記予告のように今年2月、兵庫教区の合唱大会が計画されていることです。参加される各合唱団が、決められた持ち時間内で、日頃の成果を発表し、また参加者全員でひとつの歌を歌おうというも



のです。こちらの行事にも、私たち本願寺仏教音楽・儀礼研究所から、研究員が出向したいと考えています。各教区において、合唱活動がさらに盛んになるよう、なお一層の努力をしてみたいです。

### ●予告

#### 『仏教讃歌のつどいⅠ』

日時：2006(平成18)年2月1日(水)

会場：本願寺神戸別院ホール

プログラム：第一部 各出演団体による演奏

第二部 全出演者による合唱





## ★ 情報をお寄せください ★

『佛教音楽ニューズレター』では、みなさんからのさまざまな情報をお待ちしております。研究所事務(ニューズレター担当)まで、下記内容につきまして情報をお寄せいただけますよう、お願いいたします。

### ■風をみる人～かさねあう生命のゆらぎ～



常任研究員 前田 正樹

2005(平成17)年5月15日(日)  
筑紫女学園中学・高等学校

筑紫女学園中学・高等学校校舎落成記念公演として行われた今回のイベントは、「仏教音楽」の新たな可能性を見出す試みとして注目すべきものでした。とりわけ生徒たちの素直なところがとらえた瑞々しい「いのち」の輝きが、観客にひたひたと伝わり、来場者を迎える彼女たちの精一杯の「もてなし」に、涙が出るほど心をゆり動かされました。そこで、高等学校の実行委員長である青柳麻依花さん(3年生)にお話を伺いました。

#### ★青柳さんのおはなし★



「《正信偈》や《重誓偈》とロック(ギター)演奏のドッキングは、非常に新鮮で、お経が大変なじみやすいものになったように感じました」「お経にも音楽性があり、かっこいい」「音楽を通して〈いのち〉についての教えを感じることができ、また直接みなさんに伝えることができたのが、ほんとうに嬉しい」「効果音で使われていた風の音も、音楽であり、自然すべてが音楽だと感じることができました」

若者たちの感性と真摯な態度を私たちが受けとめ、プロの方々よりも、若者たちを最前面に立てた企画こそ重要なのだと感じました。

宗門内では、次世代を担う学生・生徒、さらには幼稚園・保育園児に対する「仏教讃歌」「仏教音楽」の普及を推進してほしいとの要望が増大しています。それぞれの現場で何が求められ、どんな活動が行われているのかについて、組織教化部や龍谷総合学園、その他の関係者との連携を進める必要があります。したがって、それら関係者と定期的な会合をもち、情報収集を行った上で、具体的な提案を行い、さらには事業化しなければならないと考えます。



#### ■交流のひろば

みなさんの活動を、みなさん自身の言葉でご紹介させていただくコーナーです。全国各地で活躍しているみなさんの活動を、全国のみなさんに知っていただければと思います。600字程度の文章と写真1～2点で、ご投稿をいただけます団体の代表者の方は、まずはお電話にて担当までご連絡をお願いいたします。

#### ■イベント情報

仏教音楽や仏教芸能などに関するイベント情報のコーナーです。みなさんが主催あるいは出演される演奏会などのイベント情報をお寄せください。さまざまなイベントが、より多くの門信徒の方々とのご縁となりますよう、開催内容をはじめ、日時や会場、問い合わせ先などを掲載させていただきます。

#### ■クローズアップ

皆さんのまわりで、とくに活動の参考になるなどの、推薦情報をお持ちの方は、研究所まで是非ご連絡ください。研究員が取材に伺わせていただき、紹介記事として掲載させていただきます。

#### ■みる・きく・よむ — 出版物の紹介

研究所には、全国各地の門信徒のみなさんから、出版された著作やCD、ビデオなどが送られてきています。それらの出版情報も、紹介文を添えて掲載させていただきたいと考えていますので、是非お寄せください。なお、寄贈いただきました資料に関しては、研究所において整理保存のうえ、研究の様々な場面において活用させていただいております。

#### ■「ひと」を探しています——人材情報提供のお願い

研究所には、各地で行われる行事や演奏会、講演会、指導者研修会への、講師や演奏者の派遣要請も数多く寄せられています。もちろん研究所からも出向させていただきますが、研究所では、各地で活躍されている、それぞれの分野の専門家の方とそご地域の方々のご縁を育てていただきたく、仏教音楽や仏教文化の人材を探しています。合唱はもちろん、バンドや声明などなど、様々な人材情報をお寄せください。

#### ■資料を探しています——資料提供のお願い

研究所では、仏教音楽をはじめ、仏教儀礼など仏教文化全般にわたる資料の収集につとめています。現在までに、仏教音楽に関しては約1300曲分の楽譜や約300点の演奏会パンフレットなどを収集しておりますが、全国各地で行われている演奏会や発行されている楽譜集(特に私家版のものなど)の数からすれば、これらはほんの一部にすぎません。さらに、仏教文化全般の資料となると、本年度からの機構改革に伴って着手したばかりであるため、点数も少なく、歴史的な資料も含めて手探りの状態です。そのため、資料の充実には、みなさんのご協力を是非ともお願いいたしております。

なお収集した資料につきましては、整理・保存の上、研究資料として活用させていただくのみならず、仏教文化のライブラリーとして広く宗門内外の皆様にご活用いただけるよう、公開させていただきます。

#### ■読者の声——ご意見・ご要望など

本紙は仏教音楽に携わる皆さんの情報紙をめざしています。仏教音楽に対する皆さんの思いやご意見、研究所へのご要望なども、お気軽にお寄せください。本紙の編集はもとより、企画など今後の活動に際しての参考にさせていただきたいと考えております。

## 連載 本願寺 折々の文化

### — 「如月忌」を想う —

籠谷 眞智子

京都女子大学名誉教授  
本願寺仏教音楽・儀礼研究所 客員研究員



「如月忌」とは、1928(昭和3)年2月7日、九條武子仏教婦人会本部長(当時)が逝去されたご命日です。「如月忌」の呼称は、1953(昭和28)年、婦人会雑誌『めぐみ』の第4号で明らかにされました。このことは大谷嬉子前裏方様の御著書『慈光のなかで』において、詳細にお述べくださっています。

嬉子前裏方様は、2000(平成12)年6月22日、多くのみ教えを遺されてお浄土へご往生されました。また嬉子前裏方様は「人間をいとも簡単に殺すテレビの画面に人間の神経が麻痺してしまったのでしょうか」と申され【註①】、今日の生命軽視の世相を心からお嘆きでした。

さらに前裏方様は「み仏さまのご恩も忘れがちな私。そんな私のために、長い間で苦勞下さった、み仏さまのお慈悲に気づかせていただいたら喜ばずにはおられないではありませんか」とやさしくお諭してくださいました。

また「如月忌」に、本願寺へお参りさせていただきますと、わたくしはきまって九條武子様のご作詞である仏教讃歌「心の合掌」を思い出します。

見えねどもそのみすがた  
きこえねどもそのみこえ  
さわれ  
われのみぞ知る  
不断のちかい  
不滅のひかり  
ひざまづきてもろ手  
あわせ  
うたがわじこのよろこびに  
うけますや 我が  
心の合掌



九條武子さま

作曲は白鳥芳郎さんです。とても美しい曲です。以前「如月忌」法要の折、籠谷大学男声合唱団のみなさんが、実にすばらしい「心の合掌」を聴かせてくださいました。

作詞者の九條武子様は、「心の合掌」について「苦悩の闇路はるかに、疲れ切った歩みをつづけなければならぬ自分を、しみじみといとしく思う。【註②】(中略)ありのままなる懺悔をささげて、つつましき合掌の心にかえるとき、迷えるもののためにかざされてあった導きの炬が、あきらかにみつめられるのである。【註③】」とやさしい癒しの真心を遺してくださっているのです。

- 註① 大谷嬉子著『慈光のなかで』51頁
- ② 九條武子著『無憂華』72頁
- ③ 同上

### ■研究生の募集

本願寺仏教音楽・儀礼研究所では、仏教音楽および儀礼に関する人材の総合的な育成を目的に、平成18年度研究生を募集することになりました。詳細については、『宗報』1月号または『本願寺新報』にてご確認ください。

### ■予告：Webサイト・リニューアル

勤式・仏教音楽研究所のWebサイトが、4月より「本願寺仏教音楽・儀礼研究所Webサイト」としてリニューアルになります。新しいサイトでは、本紙と連携しながら、さまざまな情報を発信していく予定です。どうぞご期待ください。

### ■編集後記

創刊号編集の際、『音楽とは読んで字のごとく「音を楽しむ」ことである」という言葉を思い出しました。一見当たり前の様ですが、本文中でもご紹介しましたように、国の内外を問わず多くの人々が、仏教讃歌に親しみ、また様々な演奏活動を通じて仏徳讃嘆されていらっしゃる姿を思い浮かべれば、それは万国に共通する感性の表現であること、そして「音楽」による伝道の重要性を改めて実感しました。

本願寺仏教音楽・儀礼研究所では、皆さまのご期待に添える研究機関となるよう、今後も仏教音楽の研究活動に努め、その過程や成果を随時このニュースレターでもご報告したいと考えております。

また、一人でも多くの方に本誌をお読みいただきたいと願っておりますので、有縁の皆さまにご紹介くださいますれば幸甚に存じます。なお、若干の在庫がありますので、ご希望の場合は、当センターまでお問い合わせください。

(事務局)

### 『佛教音楽 ニュースレター』 創刊号 (1巻1号)

編集 本願寺仏教音楽・儀礼研究所  
 発行 浄土真宗本願寺派 教学伝道研究センター  
 所長 上山 大峻  
 〒600-8349  
 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92番地  
 本願寺第3庁舎内  
 TEL. 075 (371) 9244 FAX. 075 (371) 5761

発行日 2006(平成18)年1月1日  
 頒 価 無料